

【書評】

岡崎誠司著『変動する社会の認識形成をめざす小学校社会科授業開発研究  
— 仮説吟味学習による社会科教育内容の改革 —』

(風間書店, 2009年) 11,500円

關 浩 和  
(兵庫教育大学)

本書は、岡崎誠司氏が2005(平成17)年に広島大学大学院教育学研究科へ提出された学位論文を補訂し、公刊されたものである。現在、富山大学教授の要職にある岡崎氏は、広島大学附属小学校での勤務を中心に、長い教職経験の中で、優れた多くの授業を実践され、数々の著者や論文にまとめられている優れた教育研究者であることは周知の事実である。本書の構成は、四部からなっているが、小学校社会科授業開発の理論を論述した第一部と理論に基づく開発研究の成果をまとめた第二部～第四部に分けられる。各部の構成は、以下に示す章からなっている。

序章 本研究の意義と方法

第一部 小学校社会科授業開発の理論

第一章 小学校社会科における授業開発の課題と方法

第二章 小学校社会科における仮説吟味学習

第二部 小学校社会科における地域社会認識形成の授業開発

第三章 「都市化する地域社会」の教育内容と授業モデル(第3学年単元「川内地区の広島菜づくり」)

第四章 「郊外化する地域社会」の教育内容と授業モデル(第3学年単元「商店のある町—空き店舗問題—」)

第五章 「合理化する地域社会」の教育内容と授業モデル(第4学年単元「わたしたちの県—広島菜をつくる—」)

第三部 小学校社会科における産業社会認識形成の授業開発

第六章 「近代化する農業社会」の教育内容と授業モデル(第5学年単元「日本の農業生産—米づくりのさかんな庄内平野—」)

第七章 「情報化するネットワーク社会」の教育内容と授業モデル(第5学年単元「増えるコンビニエンスストア—中小小売店減少問題—」)

第四部 小学校社会科における国民社会認識形成の授業開発

第八章 「産業化する社会」の教育内容と授業モデル(第6学年単元「明治時代—産業化する社会—」)

第九章 「協働化する社会」の教育内容と授業モデル(第6学年単元「現代の社会問題—女子労働問題—」)

終章 変動する社会の認識形成をめざす小学校社会科授業開発研究の成果と課題

本書の意義は、第一に、現代社会を「都市化」「郊外化」「合理化」「近代化」「情報化」「産業化」「協働化」の七つで捉え、「変動する社会」という観点から新しい教育内容を提示している点である。第二の意義は、社会科における認識形成のための新しい学習論として「仮説吟味学習」を提起して、「開かれた社会認識形成」についての具体的な方法を提示している点である。

そして、第三の意義は、教師の主体的な授業開発の方法を理論的に示しながら、追試可能な授業モデルを開発している点である。かつて私は、岡崎氏と同じ学校で勤務して、氏の子どもを引きつける魅力的で革新的な授業づくりを間近で接することができた。これまでの氏の多く実践が理論づけられて、本書に具現化されたといえる。

本書は、「仮説吟味学習」が、これまでの社会科授業実践に内在する問題を解決するための社会科学習論として新たな一頁を開いたものである。一読に値する質の高い書である。